



真菌医学研究センター Monthlyセミナー

平成26年10月7日（火） 16時～17時30分
千葉大学真菌医学研究センター 大会議室

CD4 T細胞を介した免疫恒常性の制御およびその破綻による 慢性真菌感染症について

千葉大学大学院医学研究院 先進気道アレルギー学寄附講座
准教授 平原 潔

免疫恒常性の維持は、免疫細胞と細胞間の情報伝達を担うサイトカインにより厳密に制御されている。外界からの異物進入により引き起こされる免疫反応は、異物の排除後は沈静化する。正常な免疫反応の完遂には、免疫システムの正（活性化）と負（抑制）のバランスの調和が必須である。免疫システムのバランスの破綻は、自己免疫疾患、アレルギー性疾患、免疫不全症候群などの原因となる。しかし、これまで生体における免疫恒常性の維持を司る詳細な分子機構は明らかになっていなかった。

近年、われわれは免疫系に關与するタンパク質（Bach2）が、非常に幅広く免疫機能の制御を行っていることを明らかにした。今回は、この研究内容を紹介するとともに、現在われわれが進めているサイトカインによる免疫恒常性調節機構の研究について、慢性真菌感染症患者の検体を用いた解析などの最新知見を共有できればと考えている。

世話人：笹川千尋（千葉大学真菌医学研究センター長・東京大学名誉教授）
亀井克彦（千葉大学真菌医学研究センター臨床感染症分野）
連絡先：亀井克彦（E-mail：kkamei-chiba@umin.ac.jp）